

「さらに学ぶ」姿勢が次の使命へと導いてくれる

生涯学習開発財団理事長 松田妙子

ライフ・ラーニング・メンバーズの皆様、あけましておめでとございます。

新しい年を迎え、日ごろより財団の活動にご賛同いただいておりますことに、あらためて感謝申し上げます。

財団の本年の活動テーマとして皆様に提案したく考えておりますのは、「さらに学ぶ」という姿勢。私も皆様とともに一年、さらに学んで行きたく存じます。

当財団では設立当初より、社会との関わりを持ち続けることの大切さと、そのために学び続けることの大切さを訴えて参りました。その後押しの一環として、新しい社会的取り組みのための調査研究に対する助成金を、また、50歳

以上の方の博士号取得支援のための助成金を支給してきました。それらの対象者はほぼ全員が、すでに何らかの自分のステージをお持ちの方でした。

そうした方々がなぜ、さらに学ぼうとしたのか？ 学んだ先にどんな道が見えたのか？ 実際にやってみないとわからない部分もあるでしょう。しかし、これからさらに学ぼうとしている方々へのヒントを伺えないかと、助成対象者の何名かにお声をかけたところ、快くお引き受けくださいました。さつそく新年早々の14日に「社会の中で循環する知的生産を考える」というテーマでトークセッションを開催し、「さらに学ぶ」意義を皆様と共有していきたいと思っております。（本誌では次号にてレポート予定）

また今年の新しい試みとして、LL会員でもあるNPO法人ザ・シズンズ・カレッジの「学習の旅への道標」と題した講演会を共催することとなりました。会員の皆様に学びの旅へのご案内し、自分のステージと出会ったり、さらに学びを深めるきっかけにさせていただきたく考えております。シンポジウム「多元的共生社会におけるコミュニケーション力」も引き続き開催いたします。本情報誌も春からの新企画を準備中ですので、ご期待ください。

何事にも挑戦し続け、さらに学び続ける姿勢を持ち続け、本年も生涯学習を推進してまいりたく存じます。

本年が皆様にとってご多幸でありますことをお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。



東京大学工学博士号取得を祝うサプライズパーティーのひとコマ(上)。立ち止まらず、さらに学んだことが、結果的に国を動かしての大工育成塾設立につながった。大工育成塾の塾長の半纏姿で(右)。

